



熱い声援を送るファンたち

す！勇ましい音楽と独特のアナウンスに乗って選手たちが登場。それぞれファンも多いよう、入場の際に声援を送る様子を見ていると、いやが応でもテンションが上がります。試合が始まり、リングの上で選手が投げ飛ばされたり、技をかけたたり、さまざまな攻防が繰り広げられます。

やられっぱなしの選手には「ピカちゃん、立て！」「負けるな〜！」と激励が飛び、華麗な技を繰り出す選手には「はやて、行け！」「火の玉エルボー出

この試合を主催するのは、地域密着のプロレス団体「いたばしプロレスリング」の誕生



女子選手の特技に場内は大興奮!

せ！」と声がかかります。リングと観客が一体となって盛り上がるこの興奮！アルコールなしでも十分酔えます(笑)。

**まちに笑顔と元気を！
熱いぜ！いたばしプロレス**

■プロレスラーはやて
いたばしプロレスリング代表。

1964年生まれ。1995年プロレスラーデビュー後はメキシコで修業し、大阪プロレス、みちのくプロレスなどを経て現在に至る。これまで約1000試合に参戦。

かつてジャイアント馬場やアントニオ猪木などが活躍した全盛期のプロレスは、ゴールデンタイムにテレビ中継があったほど。そのプロレス人気は今、板橋で広がっている…?!

すぐ目の前で 迫力満点の試合！

4月下旬の夕方、板橋グリーンホールの入り口には長い行列が…。実はこれ、いたばしプロレスの試合の自由席に並ぶ人たち。前売券は完売していますが、より良い自由席を確保するために1時間前から並んでいるのだとか。男性だけでなく女性や親子連れの家族も！

会場へ入ると、中央には特設リングが設置され、入り口付近には板橋の各商店街のパンやサブレ、いたばしプロレスのグッズやフィギュアの販売ブースが並んでいます。観客席には、試合開始を楽しみに待っている子どもたちや、缶ビール片手にいい気分で盛り上がっている大人たち。実は初めてのプロレス観戦でちょっぴり緊張していたのですが、地元の人たちのゆる〜い雰囲気で見守りが楽になりました(笑)。

さあ、いよいよ選手の入場です。

「子どもたちは柔道をやっていますでしたが、大学でプロレス研究会を新設したんです」と話す代表のはやてさんは、板橋区在住の現役レスラーです。

大学時代、プロレスの連盟に加入してすぐにライトヘビー級で優勝！これだけのセンスがありながら、レスラーとして体が小さめの自分にはプロレスは無理だと諦め、卒業後は一般企業に就職しました。

しかしプロレスをやりたい気持ちは断ちがたく、5年後に会社を辞めてメキシコへと修行に向かいます。その後、2002年みちのくプロレスに加入。東北新幹線開業を控え、新幹線の愛称である「はやて」「こまち」というコンビの1人として活躍します。1シリーズで終わる予定でしたが、好評だったため続けることに。

6月はハッピーロードマンら総勢5人でメキシコ遠征。7月30日は石巻復興プロレス大会で石巻へ。そして、板橋区内での今後の予定はこちら。

今後の予定

- 7月3日(日) 16時～ ★観戦無料
上板橋北口商店街大会 平和公園特設リング
- 7月31日(日) 16時～ ★観戦無料
板橋宿不動通り商店街大会
板橋三丁目縁宿広場特設リング
- 8月27日(土)・28日(日) ★観戦無料
ハッピーロード大山商店街大会
ピッコロ広場
- 10月23日(日)
いたばしプロレス2周年記念大会
成増アクトホール

詳細は <http://itabashi-prowrestling.jimdo.com/>



商店街の無料イベントでは400人くらいの観客が集まるそう

先にあつたわけじゃないんです。この人とこの人を会わせたら面白そうだなと思つて」という思惑通り、皆で意気投合して飲み歩きイベント「東上線バル」を各商店街で合同開催することに。さらに、7月には板橋宿不動通り商店街も仲間入りする予定です。

プロレスをきつかけに、どちらかというトライバル視しがちだった商店街同士の交流が始まる…これはとても画期的なことでした。

「今は、お互いに競り合う時代ではないんです。商店街が一緒になって盛り上げていかないと、住民にそっぽを向かれて、街がダメになってしまう。街のために商店街のためにも、私はプロレスでお手伝いをしていきたいんです」

今年1月には坂本健区長と面会をし、いたばしプロレスは板橋区公認となりました。子ども向けのプロレス教室や女子プロ道場での指導のほか、学校の授業に呼ばれることも。

「若い頃は技を人に教えるなんてあり得ないことでしたが、今は後進に技を伝えておきたいと思うようになりました。プロレスで人の役に立ち、街を明るくできるなら、これ以上のことはありません。地元の皆様と一緒に、街に元氣と笑顔の源を作っていきたいと思います」

マスクの奥からあふれる熱い思いを受け止めに、リングサイドに応援に行ってみませんか？

自分のプロレスからみんなのプロレスへ

2007年、イベントで偶然知り合ったのが、上板橋北口商店街青年部のメンバーでした。同年代であることから気が

手掛けるようになりました。しかし、プロレス人気は長く続かず、はやてさんは2004年に退団。その後はレスラー養成所を作り、若手を育てる側に転身します。卒業生が20人ほどになった時、大会を開催するため、自らプロモーションも手掛けるようになりました。

こうして年に1度のイベントを続けるうちに、「板橋でプロレスをやると皆に喜ばれるんだ」と気が付いたはやてさんは、プロレスの大会を企画しました。ところが、直前になって出場予定の選手たちと連絡が取れなくなり、大会は急きょ中止に。迷惑をかけた関係者を1人ずつ訪ね、謝つて回つたそうです。はなから怒られると思つていたのに、どこへ行つても「応援す



選手の顔入りのサブレも人気♪



試合前には子ども向けプロレス教室も

が合い、一緒に飲むうちに商店街の夏祭りでプロレスイベントをやることに。

「1度だけのつもりでしたが、見ていた人から『次はいつやるの?』と聞かれるようになったんです」

「頑張りよう」と励まされ、ついに1年半後、外部選手を集めて「いたばしプロレスリング」を旗揚げしました。2014年夏のことです。

「身の丈に合ったこと、手の届くことをしようと気持ち而定まって、何だか気持ちがあつてきました。自分には20年間プロレスをやってきた実績がある。それを活かして皆に笑顔を届けようと思つたんです」

ついに板橋区公認に!

その後、はやてさんが取りもつ形で中板橋、ハッピーロード大山の商店街も加わり、それぞれの地元ヒーローが誕生しました。

「何かをやるうという目的が



地元ヒーローはどこでも人気者